

2023 年度 事業報告書 会計報告書



協働プロジェクトの活動のひとつ、分娩監視装置の実技研修を受ける准看護師（タンザニア）

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 中期計画における位置づけ	3
3. 海外諸活動	3
[3-1] 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	3
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）	5
(3) ケニア 原田真帆短期ワーカー（特別支援教育）	6
(4) タンザニア 雨宮春子短期ワーカー（看護師・助産師）	7
[3-2] 奨学金事業	7
[3-3] 協働プロジェクト	15
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト	15
(2) 第二期シロアムプロジェクト	15
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	16
[3-4] 災害救援復興支援	18
(1) ミャンマー難民支援（タイ・ミャンマー国境地帯）	18
4. 国内諸活動	19
[4-1] 国際保健人材育成	19
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	20
[4-3] マーケティング	23
5. 運営体制	27
[5-1] 社員総会	27
[5-2] 理事会	27
[5-3] 委員会	28
[5-4] 事務局	30
6. 社員会員・サポート会員の現状報告	31
7. 2023年度の主な動き	32

1. 今年度の歩み

常務理事 大友宣

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわかきまえるようになりなさい。(ローマの信徒への手紙 12 章 2 節)

P. F. ドラッカーは「事業の目的とミッションにかかわる定義のうち、50 年どころか 30 年さえ有効なものはない。せいぜい 10 年が限度である」と述べています。聖書「ローマの信徒への手紙」においてパウロは、私たちがこの世界の状況に只々流されてしまうのではなく、私たちの主イエスによって心を新たにして自分を造り変えていただき、私たちのミッションが何であるか、私たちが何のために召し出されているのかを認識するように命じています。この命令は現代にあっても真実です。

2023 年、世界では平和を脅かす出来事が起こっています。地球温暖化により世界中の気候変動が激しくなっています。日本の猛暑も例外ではありません。ウクライナやパレスチナでも戦いが続き、アフガニスタン、ミャンマーをはじめとして世界各地で民衆が抑圧の政治の中にいます。新型コロナウイルス感染症の混乱から世界は抜け出しているように見えますが、混乱の中で取り残された人びとは今も取り残されています。

2023 年度は JOCS 5 年計画の初年度でした。2022 年に 5 年後の JOCS のビジョンを「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」と設定し、下記の 3 点に重点的に取り組むこととしました。

1. 前半 2 年間では、JOCS の変わらないミッションを再認識し、時代や地域の変化にあった JOCS の組織や活動の変革を検討します。
2. 後半 3 年間では、それに基づき JOCS の組織と活動の変革を開始します。
3. 小さく弱い呼び声を発する存在に寄り添い、呼び声を多くの人々と分かち合い、呼び声に応える器となります。

5 年計画の初年度に、変革の第一歩を踏み出すことを決意し 2024 年度に JOCS 海外保健医療協力者会議を実施する計画を立てました。ワーカー、奨学生そしてカウンターパートが平和を作り出す働きを継続し、JOCS もその活動に参加することができました。

岩本直美ワーカーは、バングラデシュ・ディナジプールで知的障がい者のためデイケアを運営に協力しています。地域に住む知的障がい者とその家族たちと共に生き、共に祝福されています。雨宮春子ワーカーは 4 月に任期を終えて帰国し報告会をおこないました。コロナ禍でタンザニアの母と子のために共に生きた 4 年半でした。その後、フォローアッ

プのため短期ワーカーとして赴任しました。

奨学生についてはコロナ禍の影響もほぼなくなり、現地で学び、現地のために働く奨学生への支援を継続することができました。より高度の技能を病院が求められるようになってきていることが多くなりました。事務局スタッフがウガンダ、タンザニア、ネパールに出張し、モニタリングを実施することができ、各団体の事情を知ることができました。奨学生たちが送ってくださる「ものがたり」は会員への大きな力になっています。

協働プロジェクトでは、ケニアのシロアムプロジェクトの第一期が終了し、第二期として新たに開始しました。ケニアには2名の短期専門家（歯科、作業療法士）を派遣し、現地に大きなインパクトがありました。原田真帆短期ワーカーは特別支援教育の専門家として2024年1月から3月、ケニアのシロアムプロジェクトに従事しました。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトは延長フェーズを実施しています。タンザニアでは母子カードの利用促進、分娩監視装置の導入、新生児心肺蘇生の研修を継続し、成果を上げています。2事業とも、女性と子どもが活躍できる平和な社会を目指しています。現地の団体と協働し、共に成長することができました。

JOCSではワーカー派遣、協働プロジェクト、奨学金の3事業をおこなっています。タンザニアでは3事業の連携を深めてきました。3事業それぞれの特性を生かし、最大限のメリットが得られるような連携の形を模索していきます。

スタディツアーを今年度はタンザニアで実施することができました。ワーカーを発掘・育成するための勉強会はオンラインで定期的で開催し、広範囲な地域から参加者を集めることができています。

2023年度も使用済み切手運動を継続しています。ボランティアの方々のお働きに感謝です。国内活動は対面の活動をおこないつつ、オンラインでの活動も併用しています。60周年に伴い動画作成の準備を進めています。準備に想定以上の時間がかかり今年度中の完成には至りませんでした。

これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。今年度も、多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感してさまざまな形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中期計画における位置づけ

2023年度は5カ年計画2023の初年度であった。5カ年計画2023では「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」というビジョンのもと、最初の2年でJOCSの変わらないミッションを再認識し、時代や地域の変化にあったJOCSの組織や活動の変革を検討することとなっている。その計画に従い、2023年度には海外保健医療協力者会議の開催に向けて準備を開始した。

海外諸活動は、新型コロナウイルス感染症のパンデミック以前と同様に渡航が可能となり、海外出張を伴う活動も実施できた。奨学金事業では、新規の奨学生も採用したが、コロナ禍で支援を拡大したため、以前より支援している奨学生も多く継続支援した。

国内では、教会訪問など、まだコロナ禍の余波が残っているために全面的に再開ができていない活動もある。使用済み切手整理のボランティアの活動もその一つである。

5カ年計画2023では前の5カ年計画に引き続き、財務基盤を安定化させるためにも会員・寄付金を増やすことを目指しており、会員減少を抑え、より多くの支援者を得ることを重要なこととしていたが、未だ会員数は減少傾向にある。

3. 海外諸活動

長期ワーカーは2名派遣、短期ワーカーは延べ3名派遣、協働プロジェクトは2件実施、奨学金事業では81名を支援した。出張による現地モニタリング、短期専門家派遣も実施した。災害救援復興支援はミャンマー難民の支援を2回実施した。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュのディナジプールに引き続き岩本直美ワーカーを派遣した。タンザニア派遣の雨宮春子ワーカーの長期ワーカーとしての派遣は2023年度4月に終了したが、短期ワーカーとして2回渡航してフォローアップ活動をした。ケニアの第二期シロアムプロジェクトに原田真帆短期ワーカーを派遣した。

(1)バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Instituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022年7月～2025年6月

活動概要：PIMEが実施する「JOYJOYプロジェクト」（現地の知的な障がいのある子ど

もとその家族を支援するプロジェクト) への協力

1) 組織管理と運営

①スイハリ小教区内での関係づくり

スイハリ小教区のパオロ主任司祭が2023年6月、JOYJOYプロジェクトの新しい責任者となった(PIME内の異動)ことを受け、良好な関係づくりを図った。毎週月曜日は司祭館で司祭たちと夕食を取り、また教区カウンセラーおよび教区事業の責任者等をJOYJOYプロジェクトに招いた。

②デイケア施設の移設

PIMEのバンガラデシュ責任者、スイハリ小教区主任司祭兼JOYJOY責任者を含む9名の司祭(うち2名はミラノ本部修道会よりオンライン参加)からなるJOYJOY委員会が11月に開かれた。男児寄宿舎を女児寄宿舎の1階に移転する案に伴い、デイケア施設を男児寄宿舎の建物に移転することが承認された。デイケア施設の修繕費の見積りと活動報告を受け、JOYJOYプロジェクトの事業の更新(2025年6月～2028年5月まで)が決定された。

③バンガラデシュ国内ファンドレイズと啓発

週月指定食料支援(毎月米100キロと鶏肉6キロ、ビスケット毎週4箱)は、市内の3つの店から途切れることなく続いた。ダッカのNGOからは毛布50枚や知育教材が贈られ、同団体の母親たちからは冬用衣類が届けられた。地元ナショナル銀行からは、合計35枚の毛布の支給を受けた。デイケアに連なる母親たちは毎週20タカを納め、父親たちは支援者拡大のため友人・知人へ支援を呼びかけた。

2) 活動の実施

2024年1月現在、JOYJOYプロジェクト登録者数は54名。内訳は3～14歳の知的・発達障がい児童45名、10代後半～20代前半の同青年男女9名。

①デイケアの運営：週4日、一日平均16名の幼児・児童が継続して集った。スタッフ2名、ヘルパー6名、ボランティア1名(精神障がい者)、ランチ準備2名(うち知的障がい者1名)で対応した。電動三輪車による送迎もおこない、市内の啓発活動となった。

②家庭訪問：毎週土曜日と日曜日に実施した。デイケア終了後に家庭訪問をおこなう機会も増えた。

③医療および社会福祉支援：CRP(脊損治療専門病院)の専門家チームが2度JOYJOYプロジェクトに派遣され、車椅子制作をおこなった。栄養不良児への補食や抗てんかん薬を支給した。

④行事：誕生日や各宗教行事や官民協働の諸行事への参加ほか、初めてのピクニック、クリスマス会を実施した。

⑤親の会：母親の会は毎月、父親の会は3～4カ月ごとに1回実施した。

⑥スタッフ・ヘルパーへのトレーニング：理学療法士の山内章子氏による子どもの

訓練と母親・スタッフ指導は、ほぼ毎月実施された。知的・発達障がい児童の教育者であるオーストラリア人カトリーンは、デイケアの実践内容に関する評価と今後への具体的な提言をおこなった。

3) JOYJOY プロジェクトの中間評価の延期

JOYJOY プロジェクトの中間評価は 2024 年度に延期した。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

St. John Paul II Hospital（聖ヨハネ・パウロ 2 世病院）

派遣期間：2019 年 1 月～2023 年 4 月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動

TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援

1) ママ・ナ・ムトプロジェクト

① 聖ヨハネ・パウロ 2 世病院での活動

- ・母子に対する個別保健指導を実施した。

妊婦健診の重要性、産褥健診の重要性、新生児健診の重要性、保健医療施設で出産することの重要性について指導した。健診に関しては、早期の受診開始がされ、総受診回数が増加するように働きかけをおこなった。集団健康教室の体制づくりは実施できなかった。

- ・医療従事者に対する、技術と知識の向上・標準化・定着のためのトレーニングおよびマニュアルや掲示物、教材作成などを通して、適切なケアを提供するための体制作りをした。

オンザジョブトレーニング、スーパービジョン（巡回視察）、外部研修機関を利用して、妊婦健診、産褥健診、新生児健診、分娩時の新生児処置、分娩介助、分娩時の入院からの流れ（情報収集と助産診断）、異常時の管理、病棟での産褥ケアと新生児ケア、産後の退院指導、新生児蘇生法に関する研修を実施した。

分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する機械）の使用方法和モニター判読方法に関しては、座学研修と実技研修を実施した。臨床で使用する中で、知識と技術の向上を図った。

分娩管理、新生児蘇生法に関して、技術の定着と継続研修の体制は整うまでには至らなかった。

② TAHO 傘下の他施設での活動

- ・新生児蘇生法の知識と技術の向上と定着、継続研修の体制構築に取り組んだ。各施設の習得状況に応じて、産後出血管理など異常時対応に関する分娩管理の研修を実施

した。

- ・分娩監視装置の知識技術の向上と定着、継続研修の体制を構築するために、トレーナー候補に研修を実施予定であったが、実施できなかった。
- ・全施設に、掲示物や継続研修実施のための教材を作成し、教材活用方法の研修を実施した。

2) TAHO での活動

- ・TAHO が四半期に一度、産科の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョンの準備や実施を支援した。

3) 報告会

- ・2023 年度までの活動に関しての報告会を、2023 年 5 月に 8 回(オンライン 4 回を含む)実施した。

(3)ケニア 原田真帆短期ワーカー (特別支援教育)

派遣先 : シロアムの園

派遣期間: 2024 年 1 月 8 日～ 2024 年 3 月 17 日

活動概要: 協働プロジェクト「第二期シロアムプロジェクト」の特別支援教育専門家として、療育プログラムの開発および現地スタッフの能力強化をおこなう。

- 1) 「第一期シロアムプロジェクト」にて短期専門家として派遣された 2019 年以降にシロアムの園で採用された特別支援教師 2 名を対象に、実地研修をおこなった。新任教師が担当するクラス活動や子どもたちのアセスメントを支援した。教師との定例ミーティングでは、活動状況を撮影した写真や動画を用いて説明し、理解の促進に努めた。指導した際の研修資料はソフトおよびハードコピーにてシロアムの園に提供し、派遣終了後も活用できる体制を整えた。
- 2) 過去の派遣時に指導した内容の定着度を確認した。子どもたちが見通しを立てるよう「本日の活動」の流れを示す時間割や写真カード、研修資料は有効に活用されていると確認された。一方、子どもたちの障がいの種類・程度・年齢が異なる中、「第一期シロアムプロジェクト」で作成した既存の評価様式 1 種類のみでは対応できない課題が確認された。既存の評価様式を改善し、知的障がい児向け、重症心身障がい児向けそれぞれの評価様式と手引きを新たに作成した。また、新規利用児の初回評価様式と手引きも別途作成した。
- 3) 適切な療育プログラム運営のために、学期や月間でのテーマ決めや事前準備の重要性を提言した。提言を受けたシロアムの園では、10 代の子どもたちのライフスキルを伸ばすアンガサクラスにおいて、3 月のテーマをイースターに定めクラス活動を実施した。また、主任教師の能力強化に向けて、障がい児教育を学べる進学先を調査した。
- 4) シロアムの園の情報提供体制を構築するため、障がい支援をおこなう全国規模の団体

一覧を作成した。

- 5) シロアムの園での託児サービス導入にあたり、託児スタッフ研修を支援した。
- 6) 家庭訪問や学校訪問、子どもたちの保護者との交流によって把握した多様な生活環境を踏まえた上で、療育プログラムに助言した。

(4) タンザニア 雨宮春子短期ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）

St. John Paul II Hospital（聖ヨハネ・パウロ2世病院）

派遣期間：第1回 2023年9月

第2回 2023年11月～2024年2月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）のフォローアップ活動。
TAHOが実施するセミナーとスーパービジョンの支援。

2023年4月までの長期派遣期間以降、フォローアップが必要となった活動を短期ワーカーとして継続した。

1) ママ・ナ・ムトプロジェクト

① 聖ヨハネ・パウロ2世病院での活動

短期派遣期間における活動により、分娩管理、新生児蘇生法研修に関して、技術の定着と継続研修の体制はほぼ整った。また分娩監視装置の研修に関して、技術の定着と継続研修の体制は、使用方法および判読方法に関してはほぼ整った。

② TAHO傘下の他施設での活動

長期派遣期間中には実施に至らなかった、ウソングヘルスセンターとムワンズギ診療所への胎児心拍モニターを導入し、使用方法の研修を実施、トレーナーを育成し、継続研修の仕組みづくりをした。

短期派遣期間における活動により、聖アンナ・ミッション病院とンダラ病院では、分娩監視装置の基礎研修を実施し、使用方法に関しては継続研修の体制はほぼ整った。しかし、判読方法は整うまで至らなかった。

2) TAHOでの活動

- ① TAHOが1月に実施したスーパービジョン（巡回視察）の準備や実施を支援した。
- ② TAHOが年に1度開催するセミナーの準備や実施を支援した。

[3-2] 奨学金事業

2023年度はインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニア計5カ国の81名を支援した。ネパール、ウガンダ、タンザニアは渡航によるモニタリングを実

施した。2024 年度の新規募集に備えて協力団体の見直しをおこなった。

(1) インドネシア

GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く 17 名を支援した。

インドネシアでは、病院の規模・レベルに応じた病院の認証を取得することが義務付けられている。その中に配置すべきスタッフの人数や資格の基準が細かく規定されており、順守できない場合は政府から病院の認証を取得できない。そのため、認証取得の人材面における基準を満たすことができるように、近年は専門医や専門看護師・助産師の資格取得を希望する申請が続いている。2023 年度は専門医、専門看護師、専門助産師の資格取得の要請に応えた。

GKST シナルカシ病院については、当病院での長期雇用が期待できる地元出身の歯学生の支援要請に応えた。専門医の育成が喫緊の課題である GMIM カローランアムラン病院に対しては、眼科医資格取得を目指す医師の支援をした。ICAHS 傘下の病院について、2 名に対し専門看護師資格の取得、2 名に対し看護修士の取得の支援をした。

- * GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)
- * GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2) ネパール

HDCS、TLMN、UMNMDT とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者および職員 17 名を支援した。

医療へのアクセスが難しい山間部にある保健医療施設では、地理的・経済的な理由から人材の雇用が難しく、その施設がある地域の出身のスタッフの育成に力をいれている。ネパール政府が定めた専門医師、看護師等それぞれの職種の人員配置の規定に沿った各病院の人材開発の要望に応えるために、医師の専門医資格や病院の管理職に必須とされる資格や補助看護助産師の正看護師の資格取得の支援をした。

- * HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO
- * UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust : ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO。Okhaldhunga Community Hospital、United Mission Hospital Tansen を傘下にもつ。

(3) バングラデシュ

KHCP で働く 5 名を支援した。

KHCP では、創立者のベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間でパラメディックの資格取得を目指す。2023 年度は、1 名が資格を取得し、1 名が新たに採用された。

* パラメディック：医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう。

* KHCP (Kailakuri Health Care Project：カイルクリ・ヘルスケア・プロジェクト)

(4) ウガンダ

UPMB、SRD 傘下にある保健医療施設で働く 15 名を支援した。

2023 年度に研修を終えた奨学生は 3 名だった。2023 年度は UPMB から 5 名、SRD から 1 名の奨学生を採用した。8 月にはウガンダを訪問し、UPMB および SRD へのモニタリングを実施した。各団体のおかれた現状や今後の人材育成計画などを確認するとともに、20 名の元・現奨学生と面談した。奨学生の定着率としては低いものの、ウガンダでの奨学金事業が開始された 20 年近く前に支援を受け、現在も勤務を継続している元奨学生もいた。転職した職員の中には、地域内のほかの医療施設にとどまり、患者紹介時の窓口になっている人もいることが確認された。UPMB と SRD 共に、病院では基礎的な人材が揃いつつあり、専門医など高度な人材が求められている。一方、診療所では基礎的な人材の格上げが引き続き求められている。特に SRD では、政府から補填されていた医療人材の引き戻しと職員の技術不足のため供与された機材を活用できない課題があり、自前の人材育成を必要としている。

* UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau) ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の 3 教派が連携し、317 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

* SRD (South Rwenzori Diocese：ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ司教区)

(5) タンザニア

TAHO 傘下にある保健医療施設で働く職員 27 名を支援した。

雨宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を中心に、将来的に協働プロジェクトに関わることが期待できる職員の、医師や看護師の資格取得を優先的に支援した。TAHO 傘下の保健医療施設には、基本的な短期研修を受けただけで、公的資格を持たずに医療助手として働いている職員が多い。また、TAHO 傘下の全保健医療施設のどの有資格職種においても、政府が定める職員数を満たしていない。そのため各病院で優先度の高い職種である医師、正看護師・助産師、薬剤師、臨床検査技師の資格取得を目指す

職員とンダラ病院からのソーシャルワーカー育成の支援をした。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2023年度奨学生一覧

インドネシア（17名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医療助手	27	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月～2023年12月
看護師	42	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019年09月～2023年04月
ボランティア	22	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020年08月～2023年08月
ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年08月
ボランティア	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2024年07月
ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月～2025年07月
ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年07月
看護師	46	男	ICAHS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月～2024年06月
医師	36	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学（小児科専門）	2022年02月～2025年12月
助産師	32	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年03月～2025年09月
看護師	36	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2023年02月～2025年02月
医師	35	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学（内科専門）	2023年01月～2027年12月
専門看護師	52	男	ICAHS Mojowarno Hospital	疫学	2022年09月～2023年09月
専門看護師	40	男	ICAHS Mojowarno Hospital	看護学	2023年08月～2025年08月
医師	32	男	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学（眼科専門）	2024年01月～2026年01月
ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	歯学	2023年08月～2028年07月
助産師	37	女	GKST Sinar Kasih Hospital	上級助産学	2023年09月～2026年08月

ネパール（17名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
看護師	29	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2018年08月～2023年05月
臨床検査技師	32	男	HDCS Namuna Community Hospital	臨床検査学	2022年09月～2026年08月
看護教師	36	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年05月～2024年05月
看護師	29	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月

2023年度奨学生一覧

看護師長	48	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年09月～2024年09月
看護師	29	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022年05月～2024年05月
看護師	27	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護部長	35	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2022年04月～2024年04月
臨床検査技師助手	41	男	United Mission Hospital Tansen	臨床検査学	2022年01月～2023年12月
補助看護助産師	40	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年01月～2023年12月
補助看護助産師	28	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023年01月～2025年01月
看護師	26	女	Okhaldhunga Community Hospital	助産学	2022年12月～2025年12月
医師	29	男	United Mission Hospital Tansen	医学（麻醉学）	2023年05月～2025年04月
看護師	26	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022年09月～2026年09月
医師	27	男	TLMN Anandaban Hospital	医学（整形外科・外傷外科学）	2023年04月～2026年04月
補助看護助産師	25	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023年11月～2025年10月
医療事務スタッフ	22	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	理学療法学	2023年06月～2027年12月

バングラデシュ（5名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
パラメディック	37	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021年01月～2023年12月
パラメディック	35	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	34	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	36	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2023年01月～2025年12月
パラメディック	49	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2024年01月～2026年12月

ウガンダ（15名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
看護助手	38	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月～2023年06月
准看護師	29	男	SRD Buhaghura Health Center III	医学	2021年03月～2024年03月

2023年度奨学生一覧

医師	31	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2020年08月～2023年09月
准看護師	34	女	SRD St. Paul's Health Center IV	医学	2022年01月～2024年12月
その他	33	女	SRD Rwesande Health Center IV	超音波診断学	2021年08月～2024年07月
看護助手	40	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2022年02月～2024年07月
医療事務スタッフ	22	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023年01月～2027年04月
准看護師	28	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学・公衆衛生学	2023年03月～2024年06月
准看護師	26	女	UPMB Kumi Hospital	放射線学	2022年03月～2026年03月
准看護師	29	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2023年07月～2024年12月
准看護師	34	男	UPMB Kiwoko Hospital	栄養学	2023年08月～2025年08月
准助産師	29	女	UPMB Ngora Freda Carr Hospital	助産学	2023年07月～2024年12月
准看護師	31	女	UPMB Ngora Freda Carr Hospital	看護学	2023年07月～2024年12月
医師	31	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2023年08月～2026年08月
准医師	34	女	SRD Kinyamaseke Health Center III	超音波診断学	2024年01月～2024年09月

タンザニア (27名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医師補	46	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月～2024年07月
医師補	40	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月～2024年07月
医療助手	25	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2019年09月～2024年09月
神父・司祭・チャ プレン	38	男	TAHO Ndala Hospital	薬学	2020年11月～2023年11月
神父・司祭・チャ プレン	33	男	TAHO St,John Paul II Hospital	病院管理学	2020年11月～2023年11月
医療助手	26	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2020年11月～2023年11月
医療助手	24	男	TAHO St,John Paul II Hospital	臨床工学	2020年11月～2023年10月
医療助手	33	女	TAHO St,John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	32	女	TAHO St,John Paul II Hospital	看護助産学	2020年11月～2023年10月
医師補	30	男	TAHO St,John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月

2023 年度奨学生一覧

医療助手	22	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療助手	21	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療助手	28	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療助手	31	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護助産学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療事務スタッフ	32	女	TAHO St. John Paul II Hospital	会計学	2021 年 11 月～ 2024 年 11 月
神父・司祭・チャ プレン	36	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医師補	28	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2026 年 09 月
医師補	25	女	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2022 年 10 月～ 2027 年 10 月
医療助手	32	男	TAHO Ndala Hospital	ソーシャルワーク	2022 年 10 月～ 2025 年 10 月
医療助手	28	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2022 年 10 月～ 2025 年 06 月
准看護助産師	28	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2022 年 10 月～ 2024 年 10 月
臨床検査技師助手	40	女	TAHO St. John Paul II Hospital	放射線学	2022 年 10 月～ 2023 年 10 月
准看護助産師	33	男	TAHO St. John Paul II Hospital	眼科学	2022 年 10 月～ 2026 年 10 月
医療事務スタッフ	35	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2022 年 09 月～ 2025 年 08 月
医師補	27	男	TAHO Ussongo Health Center	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	28	男	TAHO St. John Paul II Hospital	医学	2023 年 10 月～ 2026 年 10 月
医師補	31	男	TAHO Rosemystica Dispensary	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月

* 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

* 掲載は契約ベース。研修がまだ開始していないなどの理由で契約をまた締結していない奨学生は掲載していない

[3 - 3] 協働プロジェクト

カンボジアのSALTプロジェクトの事後評価は、コロナ禍があけてようやく実施に至った。ケニアの第二期シロアムプロジェクトは、短期ワーカーの派遣とともに2名の短期専門家を派遣した。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトはさらに1年延長し、7年間のプロジェクトとすることとなった。

(1)SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

2019年9月に終了した当プロジェクトは、プロジェクトで作成された教材を使い、カリキュラムに沿って健康教育と思春期教育を多数の学校で実施していた。そしてプロジェクト終了後もヘルスセンターの活動として継続的に実施される予定であった。その実施状況を確認し、今後の協働プロジェクトへ活かす目的で、2024年2月に事後評価を実施した。

事後評価で把握した状況は以下のとおりである。

プロジェクト終了後、当初は健康教育と思春期教育が継続して実施されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大により学校が閉鎖されたため、学校での実施は中断された。その後、それまでの経験を活かして、関係学校の学生寮で、新型コロナウイルス感染予防のトピックを含めた健康教育を続けていた。2022年からはバッタンバン司教区のヘルスセンター予算が縮小されたため健康教育活動の予算がなくなり、健康教育活動を担っていたスタッフの雇用も継続できなくなった。現在、健康教育は、ヘルスセンターの医師が農村での巡回診療のとき、時間があれば実施するのみとなっている。

(2)第二期シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ郡 カブク村
プロジェクト期間 : 2023年4月1日～2028年3月31日 (5年間)
協力団体 : シロアムの園
直接受益者 : シロアムの園に通う身体、知的、精神、行動などに障がいのある子どもたちおよびその家族、シロアムの園のスタッフ
間接受益者 : シロアムの園に通うことができていない障がい児やその家族、コミュ

ニティの住民、その他の関係者（地域は限定されないが、特にシロアムの園がカバーするキアンブ郡内の地域）

プロジェクト目標：シロアムの園において、療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業が強化される。

2023年4月から「第二期シロアムプロジェクト」を開始した。2023年度は、2名の短期専門家と1名の短期ワーカーを派遣し、療育サービス、社会的支援など、シロアムの園における包括的ケア事業の強化を支援した。

2023年6月には、障がいのある子どもたちの歯科を専門とする高井理人短期専門家（歯科医師）を2週間派遣した。47名の園児の歯科検診を実施し、検診結果を重症児と非重症児で比較すると、重症児の方が齲蝕罹患および歯周疾患（歯肉炎）のリスクが高いことが確認された。また、子どもたちが持参した弁当やシロアムの園で提供されたジュースの摂取状況を確認し、摂食指導をおこなった。口腔衛生指導としては、検診の場での保護者への指導に加え、昼食後のスタッフによる歯みがき（一部本人による自立）を視察し、助言した。さらには、シロアムの園スタッフ向けに、園児の検診結果を共有し、口腔ケア実践のためのワークショップを実施した。高井専門家の派遣を通じて、シロアムの園で効果的な口腔ケア実践体制の整備、重症度に応じたケアの目的および方法の変更、家庭での口腔ケア支援に加え、現地の歯科との連携構築および歯科専門家による継続的なサポートが必要であることが提言された。

2023年9月には、河野真短期専門家（作業療法士）をシロアムの園に1週間派遣した。シロアムの園で働く作業療法士の作業療法技術、特に日常生活動作（ADL）に関する能力強化をおこなった。シロアムの園の日々のプログラムの観察に加え、通園児の家庭を訪問し、ADL支援の評価方法、実施体系、補助具の使い方等について改善策を助言した。ADL以外では、手段的日常生活動作（IADL）を含むライフスキル・ソーシャルスキル訓練、コミュニケーション訓練、手工芸その他の作業活動を訓練に取り入れることもシロアムの園に提言した。また10代の通園児が増えてきたことに伴う年長児向け集団活動の創設が提言され、シロアムの園では10代の子どもたちを対象としたアングザ（スワヒリ語で輝く）クラスを10月から開始した。

1月～3月には、特別教育専門家の原田真帆氏を短期ワーカーとして派遣した。（活動内容の詳細は短期ワーカーの項を参照）

(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

対象国 : タンザニア

活動地域 : タボラ州タボラ大司教区

プロジェクト期間 : 2018年4月～2025年3月（7年間）

協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

受益者 : TAHO とその傘下の10の保健医療施設（病院や診療所など）

プロジェクト目標:TAHO傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

ママ・ナ・ムトプロジェクトは、当初5年のプロジェクト期間であったが、分娩監視装置の活用および新生児蘇生法の確実な実施の定着を目指して1年延長が決まった。兩宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ2世病院を中心に、各施設の人材と技術レベルに応じて、セミナー、巡回指導（スーパービジョン）および各施設での個別・集団研修を通じて、母子保健スタッフの助産知識や技術の向上を図るために、以下の3つの成果を目指して活動した。

1) 正しい分娩管理ができるようになる。

外部機関が実施する研修を活用して、TAHO傘下の分娩を扱う8施設のトレーナー候補となるスタッフを育成した。巡回指導（スーパービジョン）やセミナーでは、トレーナーの分娩管理の技術確認とファシリテーションスキルの確認、および各施設の母子保健スタッフへの分娩管理の技術を習得するための研修を実施した。また各施設におけるスタッフの技術向上と定着を目指して、トレーナーが中心となって定期的に継続して自主研修を実施する仕組みづくりに取り組んだ。

2) 分娩監視装置／胎児心拍モニターを適切に使用できるようになる。

聖ヨハネ・パウロ2世病院では分娩監視装置の使用と判読方法の技術定着に取り組んだ。分娩監視装置を適切に継続して活用するために、スタッフによる主体的な継続研修の仕組みづくりをおこなった。その第一段階として、研修場所の確保とトレーナー育成研修を実施した。

聖アンナ・ミッション病院およびンダラ病院では、基礎研修（使用と判読方法）を実施した。

ウソングヘルスセンターおよびムワンズギ診療所では、胎児心拍モニターを導入し、使用方法の研修を実施した。外部機関の研修に参加したスタッフに対するトレーナー育成研修と継続研修の仕組みづくりをした。

3) 正しい新生児蘇生法ができるようになる。

外部機関が実施する研修を活用して、TAHO傘下の分娩を扱う8施設のトレーナー候補となるスタッフを育成した。巡回指導（スーパービジョン）やセミナーでは、トレーナーのファシリテーションスキルの確認と各施設の母子保健スタッフへの分娩管理の技術を習得するための研修を実施した。巡回指導では、各施設のトレーナーがファシリテーターとなって実技演習をおこない、技術指導と定期的な自主研修の啓発をおこなった。聖ヨハネ・パウロ2世病院およびンダラ病院では、外部機関から講師を招き、それぞれ5日間の日程で、各病院の母子保健スタッフに対する短期集中の研修を実施した。トレーナーをファシリテーターとした形式で研修が実施され、具体的な課題や問題点に対して、技術指導がお

こなわれた。

上記の3つの成果を目指して実施された活動と各施設での定期的な自主研修を通じて、特に新生児蘇生法の手技においては、すべての施設において母子保健スタッフの技術が確実に向上した。また外部機関の研修を受けてトレーナーが育成され、ファシリテーターとしての技術力も上がり、継続研修の仕組みが整いつつある。今後、持続的にプロジェクトの成果を出すためには、研修の継続と技術の実践、機材の適切な使用と管理が必要である。そのために各施設のトレーナーが指導的な役割を担える技術を習得するための研修が効果的であると考え、さらに1年プロジェクトを延長することとなった。

[3 - 4] 災害救援復興支援

自然災害やパンデミックなどによる支援要請はなかったが、ミャンマーのクーデターによるタイ・ミャンマー国境地帯への避難民の支援のため、タイの協力団体の支援要請に2回応えた。

(1) ミャンマー難民支援（タイ・ミャンマー国境地帯）

2023年2月に派遣したミャンマー難民医療支援ミッション（以下、タイ・ミッション）の現地受入先であるタイのNPO団体WTINDから支援要請を受けた。同団体の活動地であるタイ・ミャンマー国境地帯に逃れている避難民に対する緊急支援要請である。2021年2月に始まったミャンマーのクーデターに端を発した武力紛争は現在も続き、戦闘は広範囲におよんでさらに激化している。JOCSでは、理事会の協議を経て、2023年9月に5,000米ドル（約74万円）、2024年1月にも同額を支援した。WTINDの医師が中心となって医療チームを結成し、国境地帯を移動しながら診療所を立ち上げ、特に栄養失調状態にある乳幼児やその母親、妊娠中の女性、高齢者に対する医療・食料支援活動を実施している。支援金は主にビタミン点滴剤等の医療用品、食料品、救援物資、飲料・調理用水の購入に充てられた。

* WTIND (Where There Is No Doctor) タイ北部のミャンマーとの国境に近い山岳地域にある、医師のいない村で社会活動をおこなうNPO団体

4. 国内諸活動

国際協カイベントの参加、スタンプショウへの参加、講師派遣など、諸活動の多くは、対面での実施を再開したが、教会訪問や切手ボランティアなど、いまだ新型コロナウイルス感染症予防のため従来通りの対面での活動ができていないものもある。

国際保健人材育成としてスタディツアーを実施できた。また新たな啓発活動として、オンラインで映像をとおして現地を紹介するオンラインスタディツアーも実施した。

[4 - 1] 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動を目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、国際保健医療勉強会を4回オンラインで実施した。また、新型コロナウイルス感染防止のため長らく中止していたスタディツアーも実施することができた。

(1)国際保健医療勉強会

JOCSのワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療協力の分野に携わることを希望する人に学びの機会を提供するため、2023年度は計4回の勉強会を開催した。「草の根の人々と共に生きる国際保健」を年間テーマとし、3回はアジアやアフリカの草の根の人々と共に生きるJOCSのワーカーの働きを紹介した。新型コロナウイルス感染防止のため、また遠方参加が可能となるため、オンラインにて開催した。勉強会終了後は、ワーカー志願者に対して森田隆事務局長が派遣希望者説明会をおこなった。

第1回 国際協力とプロジェクトマネジメント

日 時：2023年6月2日（金）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者相談会）
参加者：合計18名（女性16名、男性2名） ＊うち会員4名
講 師：森田隆（JOCS事務局長）

第2回 草の根の人々と共に生きる国際保健：バングラデシュで障がいのある子どもたちに寄り添う

日 時：2023年7月28日（金）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者相談会）
参加者：合計21名（女性18名、男性3名） ＊うち会員9名
講 師：岩本直美氏（JOCSバングラデシュ派遣ワーカー、看護師、1993年～現在）

第3回 草の根の人々と共に生きる国際保健：タンザニアでの一つひとつの尊いのちとの出会い

日 時：2023年10月16日（月）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者相談会）
参加者：合計25名（女性23名、男性2名） ＊うち会員5名

講師：雨宮春子ワーカー（JOCS タンザニア派遣ワーカー、助産師、2019年～2023年）

第4回 草の根の人々と共に生きる国際保健

日時：2023年11月24日（金）18：30～19：30

参加者：合計21名（女性19名、男性2名） ＊うち会員2名

講師：柳澤理子氏（愛知県立大学看護学部教授、JOCS カンボジア派遣ワーカー、保健師、1989年～1995年）

(2)スタディツアー

将来、JOCSのワーカーになることを希望する人材や国際保健医療協力分野で活躍する人材を育成するプログラムとして、タンザニアでのスタディツアーを実施した。

日時：2023年9月17日（日）～25日（月）

訪問場所：タンザニア・タボラ州 タボラ大司教区保健事務所傘下にある医療施設等

テーマ：`五感で学ぶ`タボラ州の保健医療と地域の魅力

参加者：5名（医師1名、助産師2名、看護学生2名）

内容：雨宮春子ワーカーが活動する聖ヨハネ・パウロ2世病院を訪問して、病院の視察や現在実施中の母子保健活動「ママ・ナ・ムトプロジェクト」の活動視察・体験をおこなった。加えて、病院のある地域の家庭訪問、タボラ大司教区保健事務所傘下にあるイゴコ診療所、政府系の州立病院の視察をおこない、タンザニアおよびタボラ州の保健医療の現在を紹介した。また、タボラ大司教区の社会活動の一つであるアルビノ（生まれつき肌や眼、髪の色素が少ない病気）の子どもたちの保護施設があるチェヨ教区を訪問し、子どもたちとの文化交流を実施した。

ツアーを通じて、地域の医療課題とそこで実施されている活動を知ること、海外の保健医療支援とは、海外で働くとは、発展途上国での医療支援とはどのようなものであるかを知る機会となり、将来国際保健医療協力の仕事に携わるための多くの学びを提供することができた。

[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

使用済み切手運動や講師派遣、事務局訪問受け入れを通して、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知をし、国際協力活動に関する支援及び協働の機会を育んだ。

(1)使用済み切手運動

使用済み切手の寄付は、団体、個人合わせて11,715件、寄付総量は、約6,500キログラムであった。集まった使用済み切手の整理は、東京事務局17名、関西事務局13名のボランティアでおこなった。また、中学生4名、高校生4名のボランティア体験を受け入れた。

1) スタンプショウへの参加

STAMP-SHOW2023 2023年4月21日（東京都立産業貿易センター台東館）

(2) 講師派遣プログラム

JOCSの活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣した。問い合わせのあった以下の14団体に、感染対策を確認した上で、講師を派遣した。

派遣時期	派遣場所
5月	大阪保育福祉専門学校 青山学院横浜英和学院小学校 青山学院横浜英和中学高等学校 女子学院中学校
11月	関西学院大学 フェリス女学院中学校・高等学校 千葉英和高等学校 戸山教会付属戸山幼稚園 恵泉女学園中学・高等学校
12月	玉成幼稚園 聖隷クリストファー大学 同仁美登里幼稚園 カリタス女子中学高等学校
1月	土浦めぐみ教会付属マナ愛児園

(3) 事務局訪問受入

JOCSの活動や使用済み切手運動を学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れをおこなった。今年度は1団体の訪問があった。

<東京事務局>

7月 恵泉女学園中学・高等学校

(4) 国際協力イベント参加

グローバルフェスタ JAPAN2023

日時：2023年9月30日（土）、10月1日（日）

場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3-5-1）

展示内容：使用済み切手貼り絵、活動写真パネル

参加者（オンライン含む）：推計約39,000名（主催者発表）

内容：切手収集家が制作した切手貼り絵2点を展示し、使用済み切手運動ならびにJOCSの活動を紹介した。

(5) ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」に加入している。

JANIC では、3つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」に参加している。「公益法人に関する NGO 連絡会」は対面とウェブ会議のハイブリッド開催とし、「新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議」の状況共有やガバナンス強化のための意見交換をした。「組織マネジメント」には世話人として関わり、コンプライアンス、就業規則、人事評価に関する情報交換をした。「広報担当者グループ」ではウェブ上での意見交換をおこなった。

カンボジア市民フォーラムでは、森田隆事務局長が2019年度から共同代表の任務を務めている。JANNET では、2022年度までと同様に事務局スタッフが監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」(非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク)には呼びかけ人として関わり、OSA (政府安全保障能力強化支援)に関する院内集会に参加して賛同団体としての意見を述べた。「『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に!』連絡会」の活動に賛同して呼びかけ人を務めた。

(6) 地区 JOCS オンライン全体ミーティング

日本各地で JOCS の支援のために活動するグループがお互いの活動から学び合う機会として、地区 JOCS オンライン全体ミーティングを開催した。

日 時：2024年2月17日(土) 14:00～16:30

参加団体：5団体

内 容：各グループがおこなっている活動の内容を共有した。また、活動の広報の方法や活動を地域に広めていく工夫、メンバー募集の方法について等の意見交換をおこなった。

(7) 地区ボランティア活動協力

日本各地で JOCS を支援するために自主的な活動をおこなっている団体に、広報活動の面から協力した。メンバーの退会などによりコロナ前の状態に戻ることが難しい団体もある一方で、イベントや使用済み切手の整理収集活動の実施など、以前と同様の活動をおこなえるようになった団体もあった。

(8) 創立 60 周年記念事業

創立 60 周年事業の一環として、海外の活動を紹介する映像の作成作業を開始した。委託業者への発注の都合のため 2023 年度に完成することはできなかった。2024 年度に完成する予定である。

(9) オンラインスタディツアー

支援者が実際に現地を訪問して現地の様子を知る機会は限られていることから、オンライン映像をとおして支援者が現地の様子を知る機会を設けた。

日 時：2024年3月14日（木）11：00～12：00（参加者33名）

2024年3月28日（木）11：00～12：00（参加者34名）

内 容：JOCSの活動地を訪ねるオンラインスタディツアーと題し、2023年9月にタンザニア・タボラ州で実施したスタディツアーで撮影した映像を用いて、雨宮春子ワーカーの活動地の聖ヨハネ・パウロ2世病院、タンザニアの協力団体であるタボラ大司教区保健事務所（TAHO）、TAHO傘下の医療施設（聖アンナ・ミッション病院、イゴコ診療所）の訪問映像を解説とともに流し、現地での活動やそこで働く人々を紹介した。多くの映像をとおして活動地の様子、現地の食事や人々の生活を知ること、JOCSの活動地の一つであるタボラをより深く知ってもらう機会となった。

[4-3] マーケティング

会報誌「みんなで生きる」は例年通り6回発行した。キリスト教書店での広報活動や、奨学生やワーカーの最近の活動を紹介する雑誌広告など、新規支援者を得ることに実績がある活動を引き続き実施した。オンラインマーケティングにも注力した。対面での書店店頭での広報活動は店舗都合で実施できなかった。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

発行回数：年6回（偶数月10日）

発行部数：通常号 ： 5,500部

6・7月号（簡易版）：10,000部

体 裁：A4判。4ページ（6・7月号）、12ページ（4・5月号、8・9月号、10・11月号、12・1月号、2・3月号）。

送付先：会員と年額1万円以上の寄付者等。ただし6・7月号は年次報告書と合わせて全支援者に送付した。

特集記事：4・5月号 ケニア シロアム・プロジェクト終了時評価

6・7月号 （簡易版のため特集記事はなし）

8・9月号 タンザニア 雨宮春子ワーカー活動報告

10・11月号 ウガンダ 奨学金事業モニタリング報告

12・1月号 JOCSにつながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3月号 ネパール 奨学金事業モニタリング報告

その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、地区JOCSからの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に100人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付し

た。毎回 30 通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏



(2) 年次報告書

2023 年 6 月に、2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCS の活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、海外事業を紹介するページでは、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクトに関わる現地の人々の声を掲載した。国内での活動、支援者の声の他、5 カ年計画 2018（2018～2022 年度）の総括、5 カ年計画 2023 のビジョンを掲載した。

例年通り、会報誌 6・7 月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。

発行回数：年 1 回（6 月 10 日発行）

発行部数：11,000 部。発送数は約 9,600 部

体 裁：A4 版。20 ページ

送 付 先：全支援者

評 価：同封したアンケートのうち 120 通が返信された（回答率 1.4%）。

印象に残った記事として「ワーカー派遣」「JOCS の思い」が多く挙げられた。



(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、以下のプレスリリースをおこなった。

- ・オンライン報告会「妊産婦死亡率は日本の 100 倍。タンザニアでの母子保健プロジェクト～現地駐在の助産師が活動を報告～」リリース日：2023 年 4 月 11 日

(4) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の 7 月号（6 月発売）と 1 月号（12 月発売）に 1 ページ広告を掲載した。7 月号ではタンザニアの協働プロジェクトについて、1 月号ではウガンダの JOCS 奨学生の働きについて紹介した。1 名が入会、1 名が寄付者となった。

『婦人之友』誌1月号(12月発売)に資料請求ハガキを付けた1ページ広告を掲載し、ネパールのJOCSS元奨学生現在の働きを紹介した。この広告を見て2名が入会した。

(5)キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

- ・デジタルサイネージ（電子看板）の掲示（東京）
- ・書籍購入者全員へのチラシ配布（東京・大阪・通販）。チラシ約20,000枚を配布した。

31名から資料請求があり、そのうち20名が入会、3名が寄付者となった。

日本各地のキリスト教書店数カ所に広報活動への協力を働きかけたが、実施には至らなかった。

(6)教会訪問

新型コロナウイルス感染症は5類に移行したため、教会での活動報告会開催の働きかけを再開した。しかし、礼拝・ミサ等の集会は時間短縮の対策を続けている教会が多い。そのため、コロナ禍前に比べて、礼拝後に対面での報告会開催が難しい状況は続いている。6件の活動報告会申し込みがあり、5名の新入会と4名の新規寄付者を得ることができた。

(7)募金

2023年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2023年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	9,603件	1,919件	20.0%	22,888,128円
冬期募金	11,677件	4,077件	34.9%	51,285,944円
その他の募金	-	-	-	5,762,781円
国別指定	-	-	-	431,102円
奨学金指定	-	-	-	13,703,953円
海外保健医療協力指定	-	-	-	1,000,000円
災害救援復興指定	-	-	-	2,990,000円
海外派遣指定	-	-	-	0円
管理費指定	-	-	-	380,000円
総計	-	-	-	98,441,908円

夏期募金は、例年通り、6月発送の年次報告書と「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金では、バングラデシュの岩本直美ワーカーの活動を紹介する趣意書を発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で6名、冬期募金で3名が寄付者から会員へ移行した。冬期募金の趣意書を過去1年



間の新規切手協力者 1977 名に送付したところ、69 名から新規のご寄付があった。過去 7 年以内に寄付歴のないキリスト教学校 147 校に冬期募金の趣意書を送付したが、新規のご寄付はなかった。一般寄付のほか、奨学金指定、国別指定等の寄付が集まった。

(8) 遺贈

遺贈・相続財産寄付のパンフレットを増刷した。2022 年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に、資料請求はがき付きの 3 ページ広告を掲載した。『明日の友』読者 3 名から資料請求があった。そのうち 2 名は入会した。年次報告書、冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が 16 名からあった。信託銀行から、顧客の依頼により遺言書を作成しているとの表明が 5 件あった。

2023 年度は遺贈が 2 件、相続財産の寄付が 2 件あった。

(9) オンラインマーケティング

ホームページに、ワーカーの活動や奨学金支援事業の進捗状況等を毎月掲載し、SNS やメールニュースを通じて広く周知した。

ウェブ検索からの支援者獲得のために、奨学生のストーリーや団体概要、支援者の声を掲載したランディングページを作成し、Google の非営利団体向けプログラムの承認を受けて、広告表示ができるようになった。まだ表示率が低いため、今後キーワードの設定を改善していく必要がある。

また、ウェブ来訪者が支援開始に至る割合を高めるため、クレジットカードの決済手続きを、他サイトに遷移せず JOCS のサイト内で完結できるようにした。

5. 運営体制

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面での会議を増やし、オンライン会議システム利用も継続してハイブリッド開催とした。これにより、対面での活発な意見交換に加えて、遠方や多忙でもオンラインで出席が可能となり、多様な意見を聴き合う合意形成ができたと考えられる。

[5-1] 社員総会

2023年6月10日（土）午後2時から、日本聖書協会キリスト教視聴覚センター（東京都新宿区）の礼拝堂にて、第62回定時社員総会を開催した。社員総数296名のうち、出席者26名、委任状142名、書面による議決権行使書の提出30名、計198名の出席をもって成立した。総会では、2022年度事業報告がおこなわれ、議事である2022年度決算報告、役員報酬等および費用に関する規程別表改定が承認、決議された。議案審議の終了後には、2023年度事業計画、2023年度収支予算について説明がなされた。

議事に先立ち、タンザニアから帰国した両宮春子元ワーカーの「大切な出会いと小さな歩み」と題した報告を聞く機会も持った。

[5-2] 理事会

定例理事会、電子メールによる臨時理事会（決議の省略）を、以下の日程、場所で開催した。定例理事会は、対面とオンライン会議システムを併用したハイブリッド形式でおこなった。

2023年	4月22日	日本基督教団 A 会議室 (オンライン会議システム併用)
	5月29日	電子メールによる第1回臨時理事会(決議の省略)
	6月10日 定時社員総会前	日本キリスト教海外医療協力会 会議室 (オンライン会議システム併用)
	7月29日	日本基督教団 A 会議室 (オンライン会議システム併用)
	9月9日	日本基督教団 A 会議室 (オンライン会議システム併用)
	10月2日	電子メールによる第2回臨時理事会(決議の省略)
	10月22日	電子メールによる第3回臨時理事会(決議の省略)

	10月29日	電子メールによる第4回臨時理事会(決議の省略)
	11月18日	日本基督教団A会議室 (オンライン会議システム併用)
	11月27日	電子メールによる第5回臨時理事会(決議の省略)
2024年	1月20日	日本基督教団B会議室 (オンライン会議システム併用)
	2月2日	電子メールによる第6回臨時理事会(決議の省略)
	3月9日	早稲田奉仕園100会議室 (オンライン会議システム併用)

2023年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎(会長)、大友宣(常務理事)、植松功、土居弘幸、中寫裕一、
名取智子、東岡牧、本田まり、森田隆、柳澤理子
監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5-3] 委員会

(1) 財務委員会

委員長：大友宣

副委員長：羽山信輝

委員：中寫裕一、吉川彰、飯田多香子(事務局)、小池宏美(事務局)

2023年度も協議はオンラインでおこなった。例年と同じように、委員長、副委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、予算が適切に執行されていることを確認した。

収益見込みと費用の変更に対応するため、年度半ばの10月に予算の補正を協議し、調整して会長および常務理事に提出した。

会計責任者が立案した2024年度予算案は、2023年度決算見込みを確認の上で、2024年2月に協議し、調整して会長および常務理事に提出した。

(2) 奨学金委員会

委員長：柳澤理子

副委員長：小宅泰郎

委員：澤田和美、細谷たき子、宮崎雅、霜越多麻美(2023年5月から)、
石金祐実(事務局)、滝澤さおり(事務局)、竹内里佳(事務局)、
村田素子(事務局、2023年5月から)

1) 2023年度奨学生選考

委員会での協議の結果、申請のあった5カ国60名のうち22名を採用した。採用結果について理事会に答申し、全員承認された。

対象国	2023年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	13名	4名
ネパール	11名	8名
バングラデシュ	1名	1名
ウガンダ	20名	6名
タンザニア	15名	3名
合計	60名	22名

2) その他の協議

2023年度に実施したネパール、ウガンダ、タンザニアでの現地モニタリングの結果や対象国の協力団体からの現状報告、奨学金事業国別方針を踏まえ、2024年度の奨学金事業の協力団体について検討し、理事会で承認された。

(3) 地区ボランティア活動委員会

委員長：東岡牧

副委員長：久保礼子

委員：川島泉、土居弘幸、宮川眞一、高橋淳子（事務局）

オンラインでの委員会を3回、対面での委員会を2回開催した。日本各地のJOCS支援者（グループ）による自主的活動をさらに促進する方策を協議した。

(4) 関西地区活動委員会

理事会で設置を決定していたため、必要な対応を進めたが、設置には至らなかった。

(5) 役員推薦委員会

委員長：森田隆

委員：大友宣、畑野研太郎、柳澤理子、名取智子

役員選出規程に基づき、社員の投票により選出する理事候補者の推薦名簿を作成した。また、監事候補2名を選定した。

(6) 選挙管理委員会

委員長：石金祐実（事務局）

委員：笠井豊、山中博子、飯田多香子（事務局）

理事改選に先立ち、社員会員に対し投票用紙の送付、開封をおこない、理事候補者を選出した。

(7)ネクステ会議準備委員会

委員：雨宮春子、大友宣、川島泉、齊藤実、佐藤陽太、山田千晴、弓野綾、
村田素子（事務局）、森田真実子（事務局）

第6回海外保健医療協力者会議（2024年11月9日～10日開催予定）に向けて、会議テーマの検討をおこなった。

[5-4] 事務局

2023年度は東京事務局は10名、関西事務局は1名の職員体制であった。引き続き新型コロナウイルス感染防止には留意して、テレワークも一部残し、7割程度の事務所勤務率とした。事務局の業務については、15名のボランティアの協力をいただいた。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

マーケティング主任 高橋淳子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、滝澤さおり、竹内里佳、
村田素子（2023年5月～）、森田真実子

関西事務局 江川由美

6. 社員会員・サポート会員の現状報告

2024年3月31日現在

社員会員	256名
サポート会員	2,777名
合計	3,033名

2023年度中の社員会員、サポート会員の異動

1. 社員会員

(1) 新たに社員会員となられた方	2名
(2) サポート会員から社員会員となられた方	2名
(3) 社員会員を辞し、サポート会員となられた方	4名
(4) 退会された方	14名

2. サポート会員

(1) 新たに入会された方	67名
(2) 退会された方	215名

7. 2023 年度の主な動き

- 2023 年 4 月 22 日 定例理事会
- 5 月 15 日 地区ボランティア活動委員会
29 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
- 6 月 10 日 定例理事会
10 日 第 62 回定時社員総会開催（東京事務局）
- 7 月 29 日 定例理事会
- 8 月 5 日 奨学金委員会
地区ボランティア活動委員会
- 9 月 9 日 定例理事会
- 10 月 2 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
16 日 地区ボランティア活動委員会
19 日 財務委員会
22 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
29 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
- 11 月 18 日 定例理事会
18 日 役員推薦委員会
27 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
- 12 月 2 日 地区ボランティア活動委員会
16 日 奨学金委員会
- 2024 年 1 月 20 日 定例理事会
20 日 役員推薦委員会
23 日 地区ボランティア活動委員会
- 2 月 2 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
15 日 財務委員会
17 日 地区 JOCS オンライン全体ミーティング
24 日 ネクステ会議準備委員会
29 日 選挙管理委員会
- 3 月 9 日 定例理事会
28 日 選挙管理委員会
29 日 ネクステ会議準備委員会

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-51

TEL : 03-3208-2416 FAX : 03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町 2-30

大阪聖パウロ教会 3階

TEL : 06-6359-7277 FAX : 06-6359-7278

URL <https://www.jocs.or.jp>